【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第６区分
【発行日】平成25年8月8日(2013.8.8)

【公表番号】特表2011-509224(P2011-509224A)
【公表日】平成23年3月24日(2011.3.24)
【年通号数】公開・登録公報2011-012
【出願番号】特願2010-542223(P2010-542223)
【国際特許分類】
Ｂ６５Ｄ　30/24　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６５Ｄ　30/24　　Ｆ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成25年6月20日(2013.6.20)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
配合物を保持及び排出するための容器において、
中空の内部体積を規定する容器ハウジングと、
該容器ハウジングの内部体積と連通した注ぎチャネルと、
該注ぎチャネルの少なくとも一部分がロッキング気泡内に含まれるよう該注ぎチャネルの少なくとも一部分を包囲したロッキング気泡とが設けられており、該ロッキング気泡が気泡シールによって包囲されており、該気泡シールが、前記容器ハウジングの内部体積に収容された内容物が前記容器から前記注ぎチャネルを通って出ることを阻止しており、前記ロッキング気泡が、十分な圧力を受けた時に破裂可能であり、前記ロッキング気泡が破裂されると、前記容器の前記内容物が前記注ぎチャネルを通って排出されることができることを特徴とする、配合物を保持及び排出するための容器。
【請求項２】
前記気泡シールが、該気泡シールの弱くなった部分を含む破裂箇所を有しており、前記ロッキング気泡が、十分な圧力が該ロッキング気泡に加えられた時に破裂箇所に沿って破裂する、請求項１記載の容器。
【請求項３】
前記ロッキング気泡が、第２の部分に向き合った第１の部分を含む内面を有しており、前記ロッキング気泡が、さらに、内面に配置された接着剤を有しており、該接着剤が、前記ロッキング気泡が破裂され、前記第１の部分と前記第２の部分とが互いに押しつけられた後に、前記第１の部分を前記第２の部分に付着させるようになっている、請求項１記載の容器。
【請求項４】
前記接着剤が、化学接着剤を含む、請求項３記載の容器。
【請求項５】
前記接着剤が、機械的接着剤を含む、請求項３記載の容器。
【請求項６】
前記注ぎチャネルが、前記ロッキング気泡内に延在している、請求項１記載の容器。
【請求項７】
前記注ぎチャネルが、導管を含み、前記気泡シールが、前記ロッキング気泡が前記注ぎ

チャネルと交差するところで該導管内を延在しており、破裂可能シールの破裂箇所が、第１の部分又は第２の部分と、前記容器ハウジングとの間に配置されている、請求項６記載の容器。
【請求項８】
前記ロッキング気泡と、前記注ぎチャネルとが、前記容器ハウジングと一体である、請求項１記載の容器。
【請求項９】
前記容器ハウジングと、前記ロッキング気泡と、前記注ぎチャネルとが、ポリマフィルムから形成されている、請求項８記載の容器。
【請求項１０】
前記注ぎチャネルと、前記ロッキング気泡とが、前記容器ハウジングの角に配置されている、請求項１記載の容器。
【請求項１１】
前記容器ハウジングが、第１の端部と、第２の反対側の端部とを有しており、前記注ぎチャネルと、前記ロッキング気泡とが、前記容器ハウジングの前記第１の端部のほぼ中間に配置されている、請求項１記載の容器。
【請求項１２】
前記容器ハウジングが、周縁部を有しており、前記注ぎチャネルが、該周縁部から突出したチャネルを含む、請求項１記載の容器。
【請求項１３】
前記注ぎチャネルが、配合物が前記容器ハウジングから出ることだけを許容する一方向弁を有している、請求項１記載の容器。
【請求項１４】
前記容器ハウジングが配合物を収容しており、前記ロッキング気泡が、前記注ぎチャネルの開放自由端部と連通しており、容器がさらに、前記容器ハウジング内に収容された配合物と前記ロッキング気泡との間に存在するガスを有しており、該ガスが、該ロッキング気泡が破裂されるまで前記配合物が前記注ぎチャネルを通って前記ロッキング気泡に進入することを阻止するために十分な圧力にある、請求項１記載の容器。
【請求項１５】
前記ロッキング気泡が、前記容器ハウジングの１つの端部に沿った折り部によって形成されている、請求項９記載の容器。
【請求項１６】
前記折り部が、前記注ぎチャネルを被覆している、請求項１５記載の容器。
【請求項１７】
前記ロッキング気泡が破裂されても、該ロッキング気泡を再び封じることが可能である、請求項１記載の容器。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００７】
１つの実施形態において、容器は中空の内部体積を規定するハウジングを有している。注ぎ口若しくは注ぎチャネルはハウジングの内部体積と連通しており、ハウジングの内容物を容器から排出するように構成されている。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【００１９】
ロッキング気泡の内面は、初期使用の後に容器の再固定を可能にするために接着剤が塗布されている。接着剤はあらゆる適切な科学的または機械的接着剤であってよい。再び封じることが可能な粘着性弁は、ねじキャップ又は蓋等の別個の閉鎖装置の必要性を排除する。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７０】
導管が外方へ膨張することによって、外側シール１１４Ｐの向き合った層は、移動する分離前端に沿って徐々に分離する。前端は、導管が破裂して周縁破裂１１３Ｐを生じる装置の周縁部に達するまで、外側シールを横切って移動する（図１２Ｃ参照）。導管が内方へ膨張することによって、内側シール１１４Ｃの向き合った層は、同様に移動する分離前端に沿って分離する。導管内の流体は、押圧の箇所から離れてシールに向かって押しやられ、シールを分離させる。導管流体は好適に圧縮性ガスであるが、あらゆる適切な液体であってよい。導管ガスは、圧力が加えられることによって圧縮され、膨張する力を生じる。外側シールは、装置を再び封じるため周縁破裂の後、再び封じることが可能である。